

今週（11月8日から11月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、引き続き地銀と証券業態の調達为中心となったが、レート水準は先週対比で低下した。積み期も終盤となり、進捗に目途が付いてきた先も多く、週前半は軟調な展開が続いた。週後半になると、最終調整と思われる調達も見られた事で、レートはやや切り返す展開となった。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.05～▲0.045%程度での推移となった。ターム物は、1W～1M物を中心に▲0.04～▲0.001%での出合いが散見された。日銀当座預金残高は、週を通して537兆円前後で推移した。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.090～▲0.080%のレンジでの取引となった。週を通して投資家の資金調達が入り、売りはしっかりとした展開であった。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3M物の発行減が意識され、全ゾーンでしっかりとした推移となった。

9日に実施された6M物の入札は、ややしっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

11日に実施された短国買入オペは、前回と同額(1,000億円)でオファーされ、やや弱めの結果となった。

12日に実施された3M物の入札は、償還日がNY祝日と重なる銘柄ではあるものの、発行減が意識されてか、やや強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバーの動きも見られ、強含んで推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、7,700億円程度の償還総額に対して、発行総額は8,500億円程度と、活況なマーケットになった。幅広い業態が発行を実施し、自動車、電機、石油等からは1,000億円を上回る大型発行も見られた。市場残高は24兆円台半ばから後半で推移しており、先週から大きな変動はない。発行レートに関しては、年内物の発行案件では若干のマイナス圏から0%付近での取引が中心となった。一方、年越えの発行案件に関しては玉確保ニーズが強く、より低水準での決着も観測された。

11日にはCP等買入オペが事前予定通り5,000億円オファーされ、按分落札レート▲0.015%、平均落札レート▲0.013%という結果となった。平均落札レートは前回比で0.001%低下したが、按分落札レートに関しては3回連続で同レートでの決着となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/8 (月)	29,507.05	0.055	113.59	△ 0.045	△ 0.093	5,377,300
11/9 (火)	29,285.46	0.060	113.25	△ 0.051	△ 0.086	5,377,300
11/10 (水)	29,106.78	0.055	112.85	△ 0.049	△ 0.086	5,364,500
11/11 (木)	29,277.86	0.065	113.95	△ 0.047	△ 0.085	5,378,500
11/12 (金)	29,609.97	0.070	114.24	△ 0.038	△ 0.085	5,373,500

来週（11月15日から11月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/15 (月)	7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)				
11/16 (火)	9月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	5Y 25,000億円 11/17発行	国有林野借入 830億円 11/25借入		10月の米小売売上高 9月の米企業在庫 10月の米鉱工業生産・設備稼働率 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報
11/17 (水)	9月の機械受注統計(内閣府 8:50) 10月の貿易統計(財務省 8:50) 9月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)				10月の米住宅着工件数 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値 10月の英消費者物価指数
11/18 (木)		TB1Y 35,000億円 11/22発行	20Y 12,000億円 11/19発行		
11/19 (金)	10月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,000億円 11/22発行	交付税借入 11,000億円 11/30借入		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/15 (月)	400	6,800	7,200	CP買入	▲ 800		▲ 800	6,400	TB3M発行▲43000償還49700 個人向け3・5・10Y発行▲1800 個人向け3・5Y償還500
11/16 (火)	0	▲ 2,000	▲ 2,000	CP買入		5,000	5,000	3,000	
11/17 (水)	0	▲ 28,000	▲ 28,000				0	▲ 28,000	労働保険料揚げ 5Y発行▲25000
11/18 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	交付税借入▲11000償還11000
11/19 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	20Y発行▲12000
週間合計	▲ 1,600	▲ 30,200	▲ 31,800	—	▲ 800	5,000	4,200	▲ 27,600	

11/15は日銀予想、11/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、16日から新しい積み期間となり、基準比率（10月期間13.0%→11月期間9.0%）が減少するため、運用サイドの動向に注視したい。レポ市場は、GC T/Nは、積み序盤の取引となり、▲0.100～▲0.09%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、18日に1Y物の入札、19日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、16日に実施が予想される短国買入オペのオファー額、実施の有無にも注目したい。CP市場は、11月後半に入り、例年賞与払い等の理由から事業法人の発行需要が高まる時期となる。発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では15日に7-9月期のGDP1次速報、19日に10月の全国消費者物価指数、海外では16日に7-9月期のユーロ圏GDP2次速報、17日に10月の英消費者物価指数が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入